



主体性を育てるために

校長 菊地康一

遠い昔、中学生のとき、スイミングクラブで始めた水泳。オリンピックに出場することを目標にしていました。私は練習が大嫌いでした。正確には、練習からは苦しさしか感じられず、与えられる練習が大嫌いだったのです。でも泳ぐことは大好きで、ときどき練習に加えられる自由練習では、誰よりも工夫して一生懸命やっていた・・・と思います。お読みになっているみなさんも似たような思いがある（あった）のではないのでしょうか？

5年前、そのときのコーチとお話する機会がありました。当時、コーチは私のそのような特性を理解していたようで、自由練習を多くメニューに取り入れ、私の質問にも良く耳を傾けてくれていた。そんなことが懐かしく思い出されました。コーチからは「君みたいな選手が出てきたので、教えるだけのコーチングから、やる気にさせるコーチングに変えなくてはいけなくて、大変だったよ。新しいことに挑戦できて楽しかったけどね。」残念ながらオリンピック出場の夢は叶いませんでしたが、水泳選手として納得のいく成績を残すことができました。なによりも私の教員人生には、大きな影響を与えてくれたように思います。コーチに感謝しています。

運動会の延期が決まった土曜日、9年生の学級を回っていると何人かの生徒から、「校長先生、修学旅行のルールのことでお願ひがあります。プレゼンをしたいのですが、お時間ありますか。」と声をかけられました。昼休みに実行委員の6人が校長室でプレゼンをしてくれたのです。プレゼンの結果は、残念ながらルール変更とはなりませんでしたが、しかし、一人一台端末を活用したプレゼンの内容や方法は素晴らしかったこと、私の回答を聞いたときの反応が大人だったこと、そして何よりもプレゼンに向かう姿勢が主体的だったことが、校長としてとても嬉しく感じました。「4月に着任してから求め続けている『主体性』を、みんなが実践してくれて嬉しい」と伝えたときの、子どもたち一人一人が満足そうに微笑んだ笑顔が忘れられません。

私はすべての生徒に『主体性』は備わっていると思います。その力を引き出すために、次の3つのことばを意識してみてください。

- 1 『どうしたの？』 (現状を確認する)
- 2 『どうしたいの？』 (意思を確認する)
- 3 『(私は) なにをしてあげられる？』 (メタ認知の確認)

上記の問いかけをした場合、返事をもらうには『待つ』ことがポイントです。待ちきれずにこちらから解答を与えてしまう。それでは『主体性』はなかなか育ちません。最後まで話を聞き、意思を確認し、力になってあげたいことを伝えてください。とても時間を要しますが、『主体性』の育成のために時間をかけていきましょう。生徒と学校、家庭で協力して『自ら考え、自ら行動できる』機会がたくさんある学校と家庭にしていきたいですね。

学習指導要領が変わってから、「主体的に学びに向かう態度」も評価しています。また、今年度から生徒会役員の子もたちと、校長室で西台中をよりよくするための「校長室会議」を行い、子どもたちの考えを学校づくりに反映させる場面を増やしています。「自分で考えること」や「主体性」を身につけるためには数多くの経験が必要です。未来の社会では、きっとそのような力が必要なのです。

運動会 頑張りました

保護者、地域の皆様、6月7日に運動会を実施しました。残念ながら雨のため、延期となりましたが、平日開催にもかかわらず、たくさんの方々に声援を受け、子どもたちは頑張ることができました。いろいろな形で、生徒、学校をサポートしていただき、感謝しております。本当にありがとうございました。

今回の学校便りでは、運動会での子どもたちの様子を掲載いたします。また、今年度から運動会の写真販売を予定しています。詳細は、後日ご連絡します。

WEBページでは写真は削除いたします。

ラジオ体操

選手宣誓

運動会前の円陣

縄跳び走

二人三脚

人生いろいろ（障害物走）

8年生 筏流し

7年生 台風の日

9年生 ムカデ競走

全級リレー

学級対抗リレー

閉会式 表彰

※校内配付分のみ、写真を掲載しております。WEBページでは、写真は削除して掲載いたします。